



第 61 代理事長 津田照久

第 61 代理事長に承認いただきました津田照久でございます。
栄えある大阪菓業青年クラブの理事長職をまかされました上は
誠心誠意、任をまっとうしてまいる所存です。
どうぞ宜しくお願いします。

本年、大阪菓業青年クラブは創立 60 周年を迎えます。60 年と一言で申しましても、その中には私の生まれる前からの歴史やドラマがあり、多くの諸先輩の汗や思い、涙がつまっているでしょう。私は社会情勢の変化に対応しながらもその伝統が息づくよう努力したいと思えます。

大阪菓業青年クラブ 60 周年、前々よりプロジェクトチームを立ち上げ、チーム員の努力と本会役員、OB 先輩、協賛会員の協力のもと記念事業、記念誌、記念式典が着々と実ろうとしております。

事業についての現状報告となりますが、記念事業はカンボジアのライフラインもままならない地への井戸の寄贈、地雷撤去に携われる方々への応援、現地子供達への「愛の菓子運動」となります。来月の出発となりほぼ企画は煮詰まりつつありましたが、つい先月、お菓子を配る小学校の子供達の予定人数が 150 名分から 500 名分との変更がございました。

計画と異なる輸送費の問題が生じましたが、私達チームはなにより多くの子供達へお菓子をとお恵を出し合い 500 名分お菓子の量を減らすことなく乗り切る事ができました。なにより多くの子供達へお菓子をとおまっ先に行動する事業担当者に青年クラブ「愛の菓子運動」の歴史が息づいているものと感じました。

また、今回のカンボジアでの子供達への「愛の菓子運動」を菓子業界団体以外にも発信したく、近鉄線鶴橋駅から今里駅間に車窓より見える場所を無償で貸して頂くこととなり「～世界の子供達に 大阪のお菓子を～」と横断幕を製作し掲げております。

理事長の任をお受けするにあたり運営テーマを「おもいをこめて」というごくシンプルな内容といたしました。思いを込めて作るお菓子や扱う商品は後々となってもかならず良い結果をもたらすであろうと私は考えます。経営者としても思いもった経営方針が必ずあるものと考えます。

青年クラブの運営において、私を含め役員、初めて役員となる現役会員は諸先輩達からすればまだまだ未熟で至らぬ点が多いですが、思いをもって各事業に取り組むとしたら必ず自分の糧となることで失敗では終わらないのではないかとこの思いがあり今回のテーマとさせていただきます。以上、至らぬ点多々あることとは思いますが、これからの一年間皆様のご指導、ご鞭撻のほど重ねてお願い申し上げます。
はなはだ簡単ではございますが就任のあいさつとさせていただきます。